【資料２】

原子力防災ピクトグラムと表示の手引き

内閣府

2024年7月

目的と使い方

万が一、原子力施設で重大な事故が起きた場合、施設の近くのエリアにお住まいの方や滞在者は、避難や屋内退避等、原子力災害に特有の防護措置をとることになります。
本手引きでは、幅広い世代・母語の住民等にも分かりやすく情報発信することを目的に定めた「原子力防災ピクトグラム」を示すとともに、情報を確実に伝えるため、具体的な表示方法や表示物の作成手順、設置方法について解説しています。
原子力防災に取り組む地方公共団体等が、「原子力防災ピクトグラム」及び本手引きを活用することで、実際の事故時や訓練における住民等への情報伝達が、より円滑で分かりやすいものになることを期待します。

ピクトグラムとは：
情報や注意を示すために表示する案内用の図記号のことです。文字の代わりに視覚的な図記号で表現することで、言葉の違いや年齢等によらず情報の伝達を行うことができます。

目次

目的と使い方----------01
ピクトグラム一覧----------02
表示物のつくりかた----------05
多言語表記について----------08
表示物の設置位置----------09
表示物の設置方法----------10

ピクトグラム一覧

この手引きで解説するピクトグラムは次の10点です
指示のピクトグラムが２点、場所のピクトグラムが８点です。

JIS Z 9101:2018(図記号ー安全色及び安全標識ー安全標識及び安全マーキングのデザイン通則)に基づき、円形の青色は**指示**を、正方形の緑色は**場所**を表しています。

意味	基本形状	一般的な印刷色
指示		C95% M40%
場所		C85% Y80%

カラーによる表示物の作成ができない場合は、黒地版を使ってください。
ピクトグラム以外の言語情報は原則黒（K100%）で表示します。

指示のピクトグラム

指示のピクトグラムは、災害時の伝達や、防災マニュアル、『防災のしおり』等、印刷物やウェブサイト上で掲載することを想定しています。

避難指示
Evacuation

放射性物質又は放射線の放出源から離れることを指示。

原子力施設の近く（原子力発電所の場合5km圏内）で、住民等に放射線による影響が生じる可能性が高い状態となった場合（全面緊急事態）、住民等は原則として避難する。

屋内退避指示
Sheltering Indoors

被ばくを減らすため、屋内に移動し、留まることを指示。

原子力施設の周辺（原子力発電所の場合5~30km圏内）で、住民等に放射線による影響が生じる可能性が高い状態となった場合（全面緊急事態）、住民等は原則として屋内退避する。

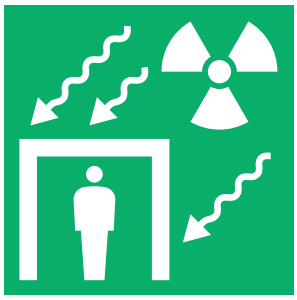
場所のピクトグラム

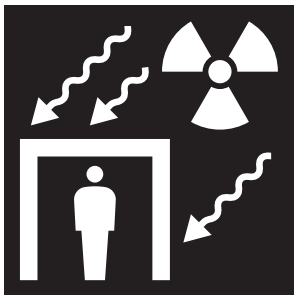
場所のピクトグラムは、災害時にそれぞれの場所や施設で掲出することを想定しています。

放射線防護対策施設
Radiation Protection Facility

被ばくを減らすための対策がなされている施設。

原子力施設の近くであっても、病院や介護施設の入所者等、速やかな避難が難しい要リスク者は、屋内の気圧を高めて外気の流入を抑えた施設で、屋内退避を行う。

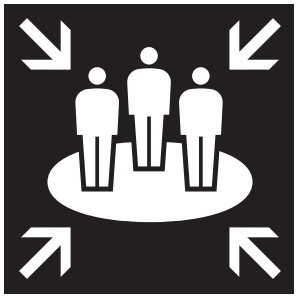




一時集合場所
Evacuation Assembly Point

避難するときに、近隣の住民等が一時的に集合する場所。

（ISO7010 E007 に準拠）



避難所
Evacuation Shelter

災害が起きたときに避難する場所。

（JIS Z8210 案内用図記号）

避難バスのりば
Evacuation Bus Stop

避難するためのバスに乗る場所。

場所のピクトグラム

場所のピクトグラムは、災害時にそれぞれの場所や施設で掲出することを想定しています。

避難退域時検査会場
Radiation Survey Site

避難する住民が乗った車両等が検査を受ける場所。

放射性物質の放出後、避難や一時移転を行う際、放射性物質による汚染が除染を実施すべき基準を下回っているか検査を受ける。

避難退域時検査（身体）
Radiation Survey (body)

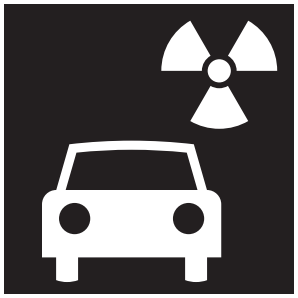
車両が基準を超えた場合に行う乗員の検査。

車両が除染を実施すべき基準を超えた場合、乗員の代表者が車両を降りて検査を受ける。

車両一時保管場所
Temporary Vehicle Parking Area

基準を超えた車両を一時的に保管する場所。

車両を除染しても基準を下回らない場合、車両を一時的に保管し、乗員はバス等で移動する。



安定ヨウ素剤配布場所
Iodine Tablet Distribution Site

安定ヨウ素剤を配布する場所。

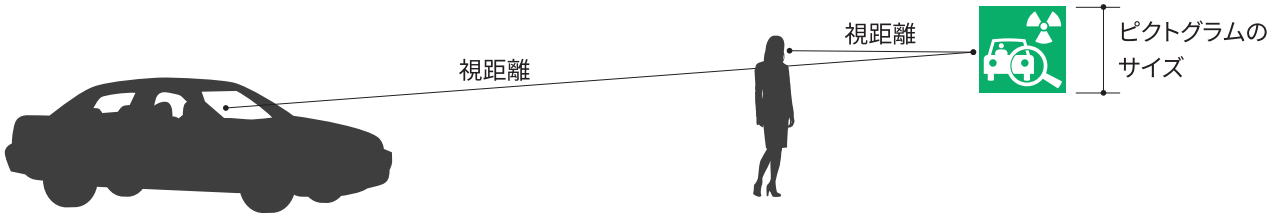
安定ヨウ素剤は、ヨウ素を製剤化した薬で、適切なタイミングで服用することにより甲状腺に放射性ヨウ素が蓄積しないようにする。避難の際に自治体の定める場所で受け取ることができる。（原子力発電所から5km圏内では事前に受け取ることが可能。）

表示物のつくりかた

本手引きで示す表示物は、放射線防護対策施設や避難退域時検査会場等で使用されることを想定しています。ここでは表示物作成の基本的な手順を示します。

手順１　ピクトグラムの大きさを決める。

表示物を見る距離（視距離）を設定した上で、ピクトグラムの適切なサイズを決めてください。大きさの目安は下の表を参考にしてください。



■ピクトグラムの大きさ設定の目安

視距離	ピクトグラムのサイズ
40m	480ｍｍ以上
30m	360ｍｍ以上
20m	240ｍｍ以上

視距離	ピクトグラムのサイズ
10m	120ｍｍ以上
5m	60ｍｍ以上
1m	35ｍｍ以上

出典　『公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック』
（発行：交通エコロジー・モビリティ財団）

手順２　ピクトグラムと文字を組み合わせる。

ピクトグラムと文字の大きさは下図の比率を推奨します。文字は、日本語、英語の２言語を基本とします。

※本手引きでは、ピクトグラムの理解を補助するために文字を併記することを推奨します。

※地域によっては中国語、韓国語、スペイン語等を加えた多言語表記が必要になる場合があります。多言語表記については 08 ページを参照してください。

書体について
可読性が高いゴシック体を推奨します。
本手引きでは“Noto Sans（ノト サンズ）”を使っています。この書体は、複数の文字の太さを持ち、多様な OS 環境や多数の言語に対応しています。下記のサイトで公開されています。
https://fonts.google.com/noto
日本語：Noto sans Japanese
英　語：Noto sans
中国語：Noto sans Simplified Chinese
韓国語：Noto sans Korean

手順 3　ピクトグラムと文字を表示物に配置する。

ピクトグラムと文字を組み合わせたものを、用意した表示物の形状に合わせて配置してください。本手引きでは縦型と横型の表示例を示します。

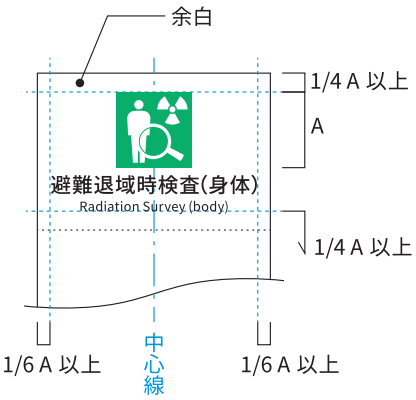
縦型の表示物

縦型の表示物をつくる場合はピクトグラムを上に配置し、全体を水平方向の中心に揃えてください。

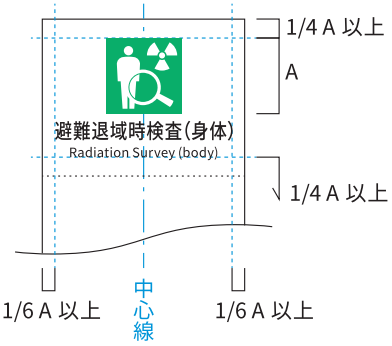
「場所」を省略した例です。

縦型の表示物をつくる場合の留意事項

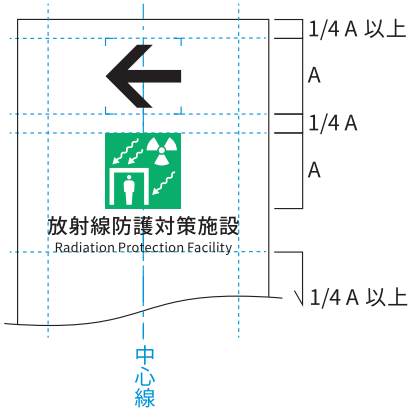
視認性確保のために必要な余白を、ピクトグラムの大きさから割り出した比率で上下左右に設けましょう。



表示物の幅に十分な余白が取れない場合は、ピクトグラムの大きさを保つために、文字だけを最大85%まで水平方向に縮めましょう。



矢印を表示する場合は、ピクトグラムの上または文字の下に配置し、表示物の中心に揃えてください。



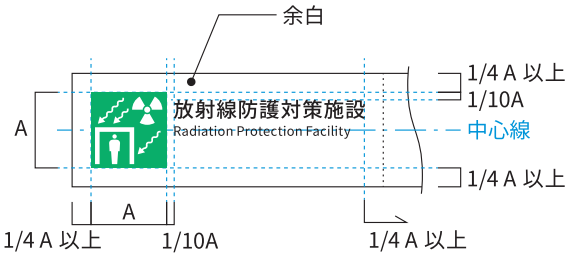
横型の表示物

横型の表示物につくる場合はピクトグラムを左に配置し、垂直方向の中心に揃えてください。文字は留意事項で示す余白に基づき配置しています。

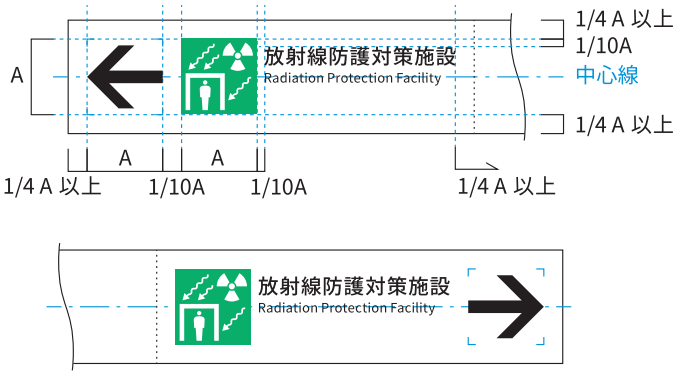
「場所」を省略した例です。

横型の表示物をつくる場合の留意事項

視認性確保のために必要な余白を、ピクトグラムの大きさから割り出した比率で上下左右に設けましょう。

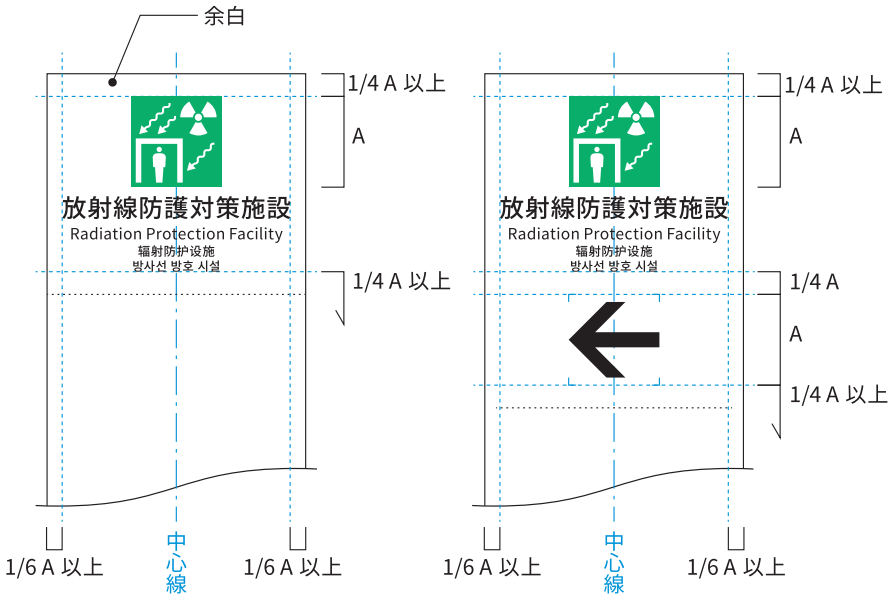


矢印を表示する場合は、「左方向（←）」、「直進（↑）」の矢印は表示物の左端に、「右方向（→）」の矢印は表示物の右端に配置してください。

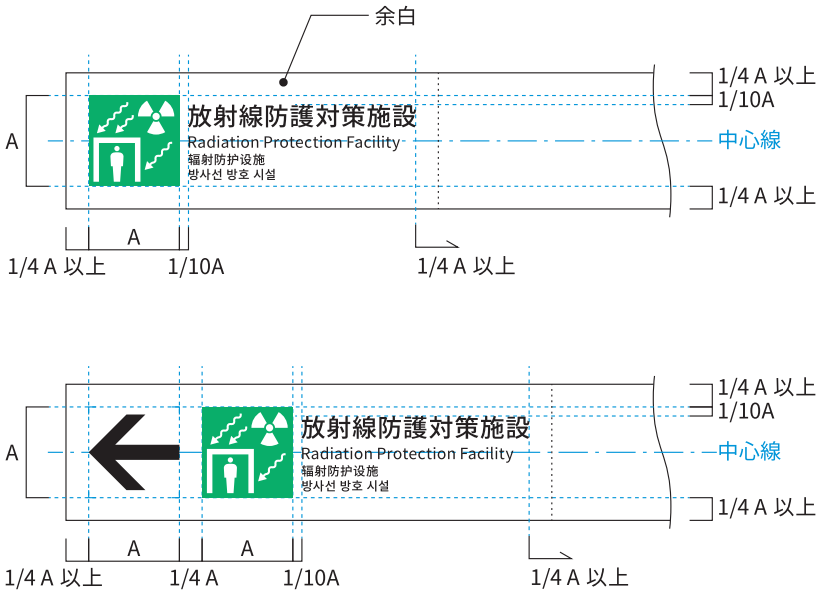


多言語表記について

縦型の表示物に日本語・英語以外の言語を表示する場合は、05ページに示された比率の文字高さとし、表示物の水平方向の中心に揃えて英語の下に縦並びに配置してください。



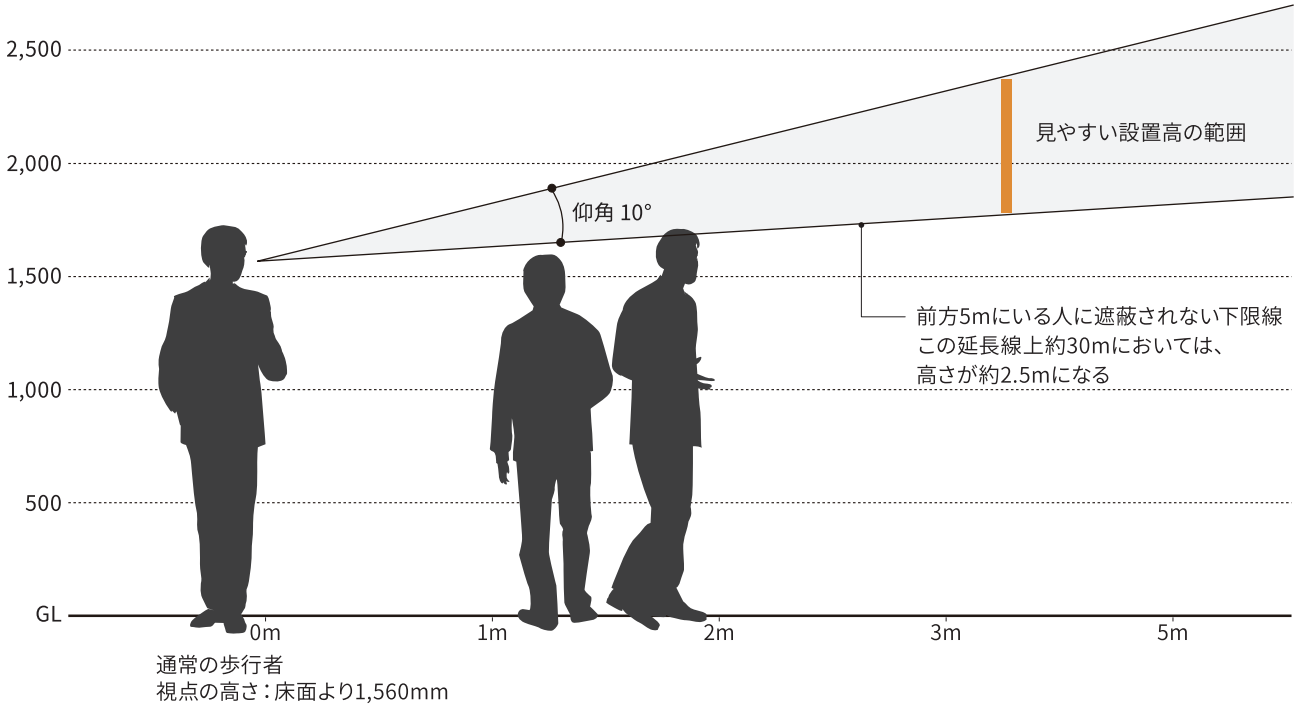
横型の表示物に日本語・英語以外の言語を表示する場合は、05ページに示された比率の文字高さとし、日本語と英語の左端に揃えて英語の下に縦並びで配置してください。



表示物の設置位置

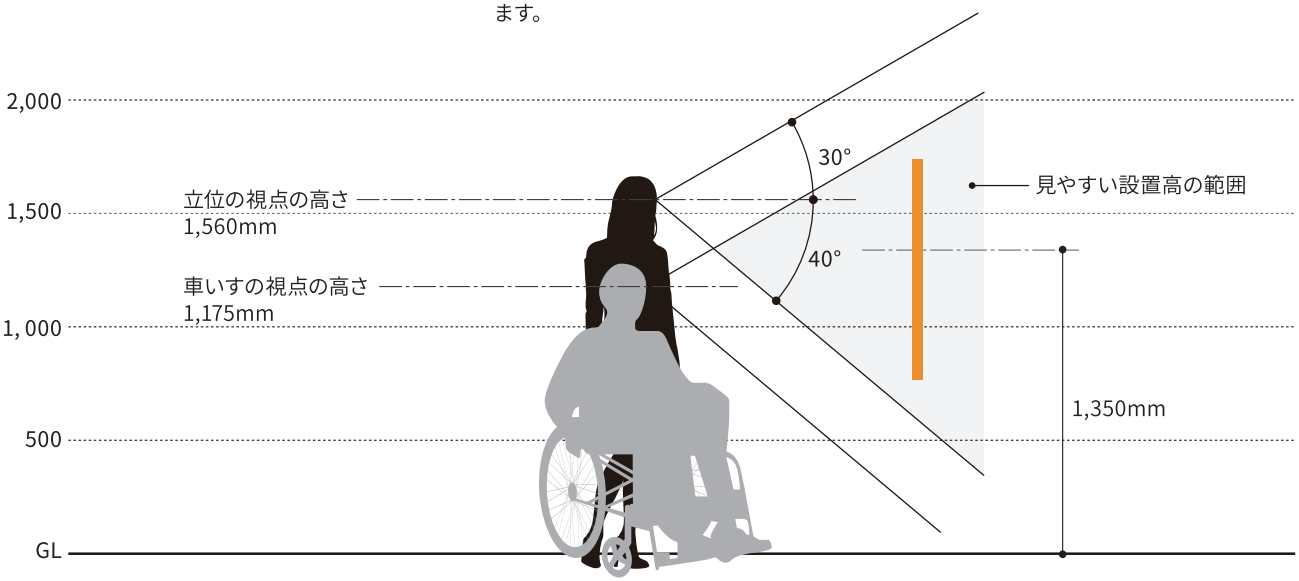
1　表示物は、前にいる人の身体に隠れない高さに設置してください。

下図は、歩きながら表示物を見る場合に見やすい範囲を示しています。
一般には仰角（水平からの見上げ角度）が 10°より下が見やすいと言われています。
この図より約 30m 離れた位置では約 2.5m 以上の高さに表示があることを推奨します。



2　近くで見る表示物は、大人や子ども、車椅子の人にも見やすい高さに設置してください。

車いす使用者が見やすい範囲は、立っている人よりおよそ400mm下がっています。
このことから、共通に表示が見やすい範囲は床面から1,350mm程度が適当と考えられます。



出典　『公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック』
（発行：交通エコロジー・モビリティ財団）

表示物の設置方法

表示物はできる限り事前に準備しておくことを推奨します。
設置する施設や会場の状況に応じて表示物の大きさ、設置する高さ、設置箇所を検討し、さまざまな利用者が見つけやすく、見やすい表示を心がけてください。

1　屋外では、風が強い状況や雨天の場合を想定して設置してください。
屋外にあるフェンスや壁を利用して、遠くからでも見つけやすい箇所に設置しましょう。シート材に出力する場合は、強風や雨天にも耐えることができる素材を選びましょう。高い位置に掲出できるものや照明が装備されているもの、コンパクトに収納できる製品もあります。

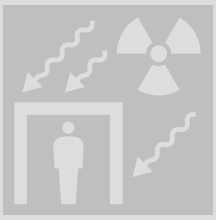
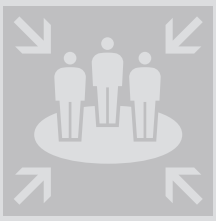
2　屋内では、誰もが見やすい場所と高さに設置してください。
並んでいる人の身体に隠れない位置、車いすの人にも見やすい高さ等に配慮して表示物を設置してください。会場にある掲示スタンドやパーティション等を利用して見やすい表示を工夫しましょう。コンパクトに収納できる掲示用品もあります。

設置イメージ

フェンス

折りたたみ式のスタンド

空気充填式大型スタンド

掲示スタンド

ロールアップ式のスタンド